# 自然エネルギー:ミニ学習(36) 三多摩各地の自然エネルギーへの取り組み(素描)

文責 宮井

## (一)2014年12月13日に「三多摩自治体学校 in 府中」というイベントが行われます。

三多摩各地の市町村自治体が抱える課題を話し合う「三多摩自治体学校」というイベントが、連綿として行われており、30回目を迎え、今年は「in 府中」つまり府中が受け持ち自治体になっています。各会派の議員の方も参加して実行委員会が開かれ、11月1日予定の全体会には高野府中市長も参加することが内定しました。現在、どのような分科会が開催できるか検討中ですが、「みんなのエネルギー」(仮称)と称して三多摩各地の自然エネルギーへの取り組みを報告しあう分科会を設けることができると、時代にかなったものになる・・・といった要望が寄せられています。

この「分科会」を担当すると(1)全体の企画をする、(2)各地に案内を出す、(3)中心になる報告者を探す、(4)最低40人ほどの参加者を募る、(5)お金の心配をする・・・・等の課題が生まれますが、この機会を通じて府中市内での取り組みや他の地域との交流が一歩、前進すれば・・と思います。

そこで、インターネット情報を中心に、現在、三多摩各地で自然エネルギーへの取り組みがどのように行われているか、簡単に調べてみました。

## (二)市民自身が、「共同発電」に参加する。

府中市隣りの**多摩市**の数年前からの取り組みは、全国的にも紹介されています。一般社団法人「多摩循環型エネルギー協会」を結成して、弁護士や作家、専門家、多摩商工会議所ら多彩な方々が参加し、環境省の補助金を受けて「共同発電」の準備をしました。2012 年には、この協会の方に来ていただいて府中市で講演会を開いたことがあります。今では「多摩電力合同会社」という社員21名の会社が発電を行っており、(http://tama-den.jp)市民は「たまでん債」を買って出資し、協力しています。

同じく隣の**調布市**では一般社団法人「調布未来のエネルギー協議会」が2012年10月に発足しています。フェイスブックやホームページ(http://chofu-energykyou.jp/)を拝見すると、活発に活動している様子が窺えます。発電は非営利型株式会社「調布まちなか発電」で行い、市とタイアップして市営住宅の屋根で発電しています。業として参加する専門の方がおられるようです。

**小平市**は 2009 年に市のエネルギービジョンを策定し、自然エネルギーの推進、太陽光発電日本一をめざしました。市民委員として加わったメンバーが中心になって福島第一原子力発電所の事故のあと 30 人ほどで「こだいらソーラー」を立ち上げたとのことで、第一号機は12kwです。ファイナンスに大変、苦労されたようです。(http://kodairasolar.wordpress.com/)

## (三)様々な模索

市民がお金を出し合って、「共同発電をしょう」と考えたとき、これを支援する「PVnet」という全国的な組織があります。**武蔵野市**では「むーソーラー」と名付けて東京都に NPO 登録の申請を行い、「PVnet」の支援を受けて市民に出資を呼び掛ける準備をしているとのことです。**三鷹市**でも、「みかた市民共同発電を考える会」が活動し、今年、NPO法人化に向け、現在手続き作業が進行中です。NPO法人の名称は「特定非営利活動法人 みたか市民協同発電」になったことをフェイスブックで発信しています。また**小金井市**でも(屋根が資源になる)「小金井自然エネルギー」という言葉が「トランジションタウン小金井」から発信されています。

**稲城市**では「原発ノー、エコ稲城の会」が市内の自然的条件を調査して「自然エネルギーでどの程度発電できるか」を提案しています。

以上は区部に比較的近い地域の動きですが、**立川市**はある議員さんのホームページによるとすでに 2007 年に最初に市民共同発電をグループホームの屋根を使って行い毎年各月の発電量を掲載しており、比較的早い時期からの取り組みが注目されます。

**八王子市**では一般社団法人「八王子協同エネルギー」が「牧場に市民発電所をつくろう」と呼びかけ

ています。(HTTP://8ENE.ORG/)

また青梅市には、「木質エネルギーの導入推進を通じて、自然と真に調和した社会に向かう強力なエンジンになれるように」という理念を掲げた「森のエネルギー研究所」という会社があります。(http://www.mori-energy.jp/index.html) また「青梅小水力発電プロジェクト」という運動体があり、その小水力発電2号機は、奥多摩の鳩ノ巣にある「西川花の里」に設置されているとのことで「西川花の里づくりの会」という地元の団体の協力で地域の特性を生かして行政区を超えた動きが出ているようです。都心を遠ざかるにつれて対象とするエネルギー源が多様になっています。

### (四)大切な行政の役割

以上、三多摩各地の市民の動きを素描しましたが、「市民任せ」で良いわけがありません。「自然エネルギーへの志向」は、国際条約が求めている地球温暖化対策推進計画の一環でもあり各自治体は目標をもち取り組んでいるはずです。東京都や神奈川県が始めた「公共施設」の屋根貸しを八王子市、調布市など市町村レベルでも実施しているところがあります。府中市でも同じ趣旨の市民の陳情が議会で採択されました。

2008 年に「みどり三多摩」という団体が「自治体環境度調査」を行いランキングして発表したことがあります。現在どうなっているか興味深いところです。

多摩市民が「多摩電力合同会社」を作り、小平市の市民が「こだいらソーラー」を立ち上げるまでの間、各行政は積極的な役割を果たしたことが報告されています。

「自治体学校 in 府中」で分科会を企画する場合、三多摩各地の住民が地元の自治体にどのようなことを求めて運動しているかなども情報交換することも大切と思われます。この場合、その地域の特徴ある資源を生かして進めることが、地域振興、町おこしの観点からも望まれています。

### (五)最近の書籍から

最近、①**「地域の資源を生かす再生可能エネルギー事業」**(環境エネルギー政策研究所著 金融財政研究会 発行)、②**「地域振興に生かす自然エネルギー」**(田畑保著 筑波書房発行)といった書籍が発行されています。内容は

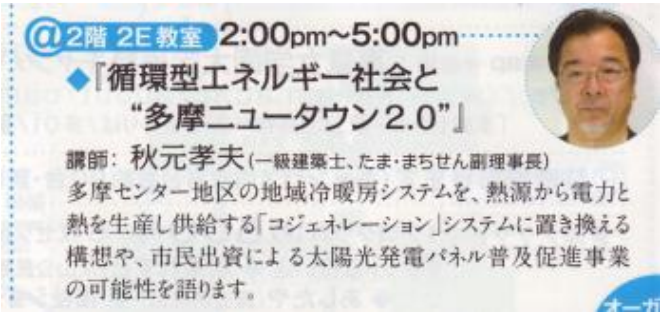
①は地域が育み地域に還るあらたなエネルギーデザインを地域主導で具体化する方策を探っています。

②は市民共同発電の実情を具体例で紹介し、地域振興とのかかわりを論じています。自然豊かな農山間部での例が多く都市部での事例はまだ少ないですが、こうした動きに関心をもつ研究者も増えています。

### (六)地元からも多く参加し、他の地域と交流できる分科会を

もし、私たちがこの分科会の事務局のような役割をするとすれば、私たちだけでなく、こうした課題に関心を持つ「トランジションタウン府中」「環境市民の会」などに呼びかけて共同して進めて行きたいと思います。役割分担して、三多摩のできるだけ広い地域の運動体や団体と連絡をとって準備できればと思います。

以上




**(28 回自治体学校 多摩市での類似の分科会の例です)**